



 シュンク

スマートツールホルダー iTENDO²

振動測定で工具寿命を最大化



シュンク・ジャパン
技術サポート&サービス

大川 樹氏

生産現場で新たなワークの製造を始める際に、加工条件が適切かどうかは、仕上がり面からだけでは評価し切れません。切り込み量や送り速度を変更して、どれだけ振動に影響するかを測定することで、適切な値を設定できます。同製品はわが社のツールホルダー「TENDOシリーズ」とサイズを共通化しているため、最適化した加工条件でそのまま実加工を始められます。

また工具寿命を最大化できるのもメリットです。従来は工具交換のタイミングを経験から決めるケースがあり、まだ使えるのに廃棄してしまう現場もありました。同製品は一度の加工の振動を測れるだけでなく、連続した加工における振動を測定し続け、波形の変化も把握できるようにしました。その傾向を分析することで、適切なタイミングで工具を交換できるようになり、不要なコストを削減できます。同製品のデモ機を使ってテストもできるので、ご興味があればご連絡ください。

スマートツールホルダー「iTENDO² (アイテンドーツー)」は、加速度センサーを内蔵しており、加工時の振動を測定できます。測定データは、セットで提供する専用のタブレット端末にリアルタイムで転送します。さらに、そのデータをテキスト形式で出力する機能も備えているため、解析用ソフトウェアで活用するなどして、加工条件の検証につなげられます。

生産現場で新たなワークの製造を始める際に、加工条件が適切かどうかは、仕上



特徴

加速度センサーを内蔵したツールホルダーで、加工時の振動を測定できる。空運転時の振動を測ることで、加工機の異常検知にも役立つ。通常タイプに加え、振動がしきい値を超えた際に加工機へ停止信号を送れるタイプもある。昨年末にはセンサー単体でも発売し、例えばバイスに取り付けると、バイスが受ける振動などをダイレクトに測れる。

問い合わせ先

シュンク・ジャパン株式会社

〒140-0004
東京都品川区南品川2-2-13
南品川JNビル1F
TEL 03-6451-4321

